

印旛沼流域の水環境保全に関する啓発活動

発表者 岩井 久美子

I 団体名 特定非営利活動法人水環境研究所

1. 設立年月日：平成16年10月5日
2. 構成人数：25名
3. 活動拠点：佐倉市を中心とする印旛沼流域内外の湧水地点

II 活動目的

当団体は過年度において谷津田の湿地における窒素の浄化機能に着目し、印旛沼流域の谷津田をモデルとし調査研究を続けてきた。本年度はその成果をシンポジウムで公表し印旛沼の水質汚濁への効果について意見を交換する。また、環境学習を通し印旛沼における湧水の役割を知ってもらい環境保全への啓発につなげる。

III 今年度の具体的な活動内容

- (1) 公開シンポジウム「印旛沼、未来への可能性 ―印旛沼流域における谷津の機能と役割―」

① 実施日時：平成30年12月1日 13:30～16:30

② 実施場所：佐倉市立美術館4階ホール

③ 内容

- ・基調講演：「印旛沼流域の地形・地質的特徴」

千葉大学環境リモートセンシングセンター教授 近藤 昭彦氏

- ・研究成果発表1：「印旛沼流域の谷津田の分布と特徴」千葉大学 堀江 政樹氏

- ・研究成果発表2：「谷津湿地における水質浄化の特徴」

特定非営利活動法人水環境研究所 理事長 瀧 和夫

- ・パネルディスカッション 「印旛沼、未来への可能性」

座長：東邦大学理学部生命圏環境科学科准教授 西廣 淳氏

パネラー：近藤 昭彦氏、堀江政樹氏、瀧 和夫

④ 共催・後援団体

共催：印旛沼流域圏交流会*

後援：印旛沼水質保全協議会、印旛沼流域水循環健全化会議、公益財団法人印旛沼環境基金、千葉市、船橋市、八千代市、里山の会E COMO、NPO富里のホテル、環境パートナーシップちば、八千代オイコス

- (2) 水環境保全に関する環境学習

①実施日時：平成30年11月23日 13:30～15:30

②実施場所：印西市物木地区周辺

③内容：湧水調査の野外実習

IV 活動の成果と考察

(1) 公開シンポジウム「印旛沼、未来への可能性 ―印旛沼流域における谷津の機能と役割―」

シンポジウムには、印旛沼流域を拠点とし環境保全活動を行っている市民団体、環境行政に携わっている千葉県、印旛沼流域市町村、大学生など49名が参加した。

近藤明彦氏による基調講演では、大学、企業、行政、子供、流域圏の市民らが課題を共有し目的を達成するという「超学際」についての話がなされ、それぞれの立場で担うべき役割を果たしお互いに補うことの重要性を再認識することができた。

また、堀江政樹氏による脱窒モデルによるシミュレーションでは、湿地において脱窒によって硝酸性窒素濃度が低減することが報告された。しかし、当法人の畔田谷津における調査研究発表では脱窒の必要条件である還元的環境が地下水位などの影響を受け必ずしも安定した脱窒環境が整わず、湿地での脱窒機構にはまだ解明すべき課題があることが報告された。現状の谷津田で脱窒を促進させる条件を解明することが重要であり、今後は、谷津田の湿地、特に沖積層内での脱窒機構を支配する因子を詳細に究明する必要があると考える。



パネルディスカッションでは、谷津は水質浄化に代表される「公共の価値」をもつものの、①地権者へのメリット、②維持管理についての課題に対し、「富里のホテル」の活動をモデルにした子供たちの谷津田での自然体験が重要であるという意見が出された。

(2) 環境学習活動

市民活動団体「里山の会 ECOMO」が実施する印西市物木地区の湧水調査に同行し、現地での簡易水質測定、結果の判定及び評価について助言、指導を行った。

3か所の調査地点のうち、1か所で台地での畑地利用によると思われる高濃度の硝酸性窒素が検出された。パックテストによる安価な検査ができることのメリット、地点による測定値の違いと土地利用との関連性について学んでもらうことができた。同時に湧水の「環境指標」としての役割も学習し、大きな成果であったと考える。

なお、予定していた八千代オイコスとの協働事業「川の学校」での環境学習は、台風の影響により中止となった。

V 今後の活動方針

次年度は、今年度中止になった「川の学校」の環境学習のほか、湧水を通じた環境学習を継続し、「環境指標」としての湧水の役割について啓発活動を行う予定である。